

南メソポタミア最北部のシュメール初期王朝及び アッカド王朝時代の古代都市遺跡

—イラク、テル・シンカー遺跡の地表面調査(2024~2025年度)—

川上直彦 長崎国際大学人間社会学部准教授

長谷川均 国士舘大学名誉教授

中島金太郎 江戸川大学メディアコミュニケーション学部講師

後藤智哉 国士舘大学 21 世紀アジア学部附属イラク古代文化研究所特別研究員/グリーン航業株式会社専務取締役

片多雅樹 長崎県埋蔵文化財センター専門幹

ムブダー・ダミール・ムブダー イラク考古・遺産庁ドゥジャイル支部支部長

フォワード・ダリル・マフムード イラク考古・遺産庁ドゥジャイル支部研究員

オマール・アリ・フセイン イラク考古・遺産庁サーマッラー支部研究員

The Archaeological Site of an Ancient City from the Sumerian Early Dynastic and Akkadian Periods in the Northernmost Part of Southern Mesopotamia: The 2024-2025 Fiscal Year Seasons of Surface Survey at Tell Sinker, Iraq

KAWAKAMI, Naohiko Associate Professor, Faculty of Human and Social Studies, Nagasaki International University

HASEGAWA, Hitoshi Professor Emeritus, Kokushikan University

NAKAJIMA, Kintaro Assistant Professor, College of Media and Communication, Edogawa University

GOTO, Tomoya Special Researcher, Institute for Cultural Studies of Ancient Iraq in the School of Asia 21, Kokushikan University /
Executive Director, Green-Kogyo Co., Ltd.

KATATA, Masaki Specialist Officer, Nagasaki Prefectural Government Archaeological Center

MUBDIR, Dhameer Mubdir Director, Iraqi State Board of Antiquities and Heritage, Dujail Office

FOUAD, Dalil Mahmoud Researcher, Iraqi State Board of Antiquities and Heritage, Dujail Office

OMAR, Ali Hussein Researcher, Iraqi State Board of Antiquities and Heritage, Samarra Office

1. はじめに

紀元前 2300 年頃、古代メソポタミアでアッカド王朝が人類史上初の統一国家を樹立し、それに応じて、史上初の首都と定義可能な都市「アガデ」を創建した。しかし、このアガデの所在地はいまだ明らかになっていない。近年、本報告者の川上(Kawakami 2022; 2023)は、楔形文字史料が包含するアガデの位置に関する地理情報、3次元地形データ(数値標高モデル)、及び衛星画像・写真を、地理情報システム(GIS)を介して分析し、イラクの首都バグダードの北方約 52 km に位置するテル・シンカー遺跡をアガデに推定した。

テル・シンカー遺跡は、1956-1957 年の間に米シカゴ大学の R. McC. アダムズ(Adams 1972)により簡易な地表面調査が行われ、地表から採集した土器片の型式学的分析にもとづき、同遺跡が主としてシュメール初期王朝から次のアッカド王朝時代に年代付けられると定義した。また、薄層の最上位堆積物は、サーサー

ン朝期に属し、一部にイスラーム初期の物資文化も含まれていることも指摘した。アダムズは、初期王朝からアッカド王朝時代の遺跡としては非常に規模が大きく、図 1 に 1950 年代後半にアダムズが予備的に描写した同遺跡範囲線が示されているとおり、45 ha におよぶ大規模遺跡で、当時、大変有力な都市国家であった可能性があるとして推定した(図 1)。しかし、アダムズは地表から採集したこれらの時代に年代付け可能な型式学的特徴を有する土器片は公表していないため、どのような型式学的特徴を有する土器片が同遺跡地表面に散乱し、また、具体的にアッカド王朝時代から初期王朝時代第 III 期から第 I 期までのどの段階まで遡って年代付けが可能であるのか詳細が不明である。

更に、アガデは人類史上初の統一国家であるアッカド王朝の最重要都市であり、それに応じて規模は大きいものであったと推測される。アダムズが描写したテル・シンカー遺跡範囲線は、およそ 45 ha と非常に大きいため、同遺跡がシュメール初期王朝からアッカド



図1 テル・シンカー遺跡の衛星画像及びアダムズの同遺跡範囲線地形図(Google Earth 画像を加工)。

王朝時代にかけての主要な都市遺跡であり、人類史上初の統一国家の首都アガデの候補として推定するに値する。しかし、図1の現在の同遺跡の衛星画像から明らかなように、アダムズの同遺跡範囲線内の東部及び南部エリアの大部分は、今日までに農地と住宅地に変容し、完全に失われ、本当に45 haにおよぶ大規模遺跡であったのか衛星画像などから確認ができない現状にある。

上記2つの課題に対処し、テル・シンカー遺跡をアガデに推定する仮説を補強・検証する目的で、アダムズの同遺跡範囲線内部及びその外側周辺エリアに散乱する型式学的特徴を有する口縁部土器片、底部土器片、そして装飾が施された土器片等の採集・分析を行う。そして、第一に、アガデが確実に都市として居住されていたシュメール初期王朝時代第III期からアッカド王朝時代に年代付けることができるのか検証する。第二に、農地と住宅地に変容し、完全に失われたアダムズの同遺跡範囲線内の東部と南部エリア、そしてその範囲線の外側周辺エリアにおいて、型式学的特徴を有する土器片が散乱しているのか調査し、散乱しているのであれば、それらを採集・分析して、1950年代後

期まで、これらのエリアが同遺跡の一部として認識可能であったのか、そして同遺跡がアガデに推定可能な大規模遺跡である可能性について検証する。

2. 第1次テル・シンカー遺跡地表面調査

2024年度(2025年)3月に実施した第1次テル・シンカー遺跡地表面調査は、アダムズが予備的に描写した同遺跡範囲線の外側周辺エリアと範囲線内の東部エリアの農地と住宅地が同遺跡の一部であった可能性について検証することを目的として実施した。アダムズの同遺跡範囲線の北部、北東部、東部、南東部の外側に広がる農地と住宅地を調査対象エリアとし、川や植生などの自然環境及び水路や建物などの人工物により地表面調査が阻害されないエリアにてランダム・ウォーキングを行い、型式学的特徴を有する口縁部土器片、底部土器片、そして装飾が施されている土器片等の採集を試みた。その結果、112点の遺物を採集した。

一方では、GISによりアダムズのテル・シンカー遺跡範囲線エリア全体とその外部周辺エリアを覆うかたちで、50メートル四方のグリッド図を作成して重ね合わせた地形図を作成した。このグリッド図の枠組みに基づき、アダムズの同遺跡範囲線の外側南西エリアに位置するグリッド・ナンバー651(図2右下)と同遺跡範囲内側の東部エリアに位置するグリッド・ナンバー1692(図2右上)において、型式学的特徴を有する土器片の採集も試みた。その結果、グリッド・ナンバー651からは20点、そしてグリッド・ナンバー1692からは30点の型式学的特徴を有する土器片を採集した。

ランダム・ウォーキングとグリッド・ナンバー651及び1692から合計162点におよぶ型式学的特徴を有する土器片を中心とした遺物を採集することができた。これらの遺物の採集地点は、AW3Dデジタル地形モデル(DTM)から作成した図2の同遺跡の等高線図に点で記録・表示されている(図2)。採集した土器片すべての年代を十分に設定することはまだできていない。しかし、アダムズのテル・シンカー遺跡範囲線の内側東部エリアと外側周辺エリアに土器片が散乱していることが確認されたため、シュメール初期王朝とアッカド王朝時代に同遺跡範囲線内と外側周辺エリアの農地と住宅地に、これらの時代の居住エリアが広がっていた可能性が示された。

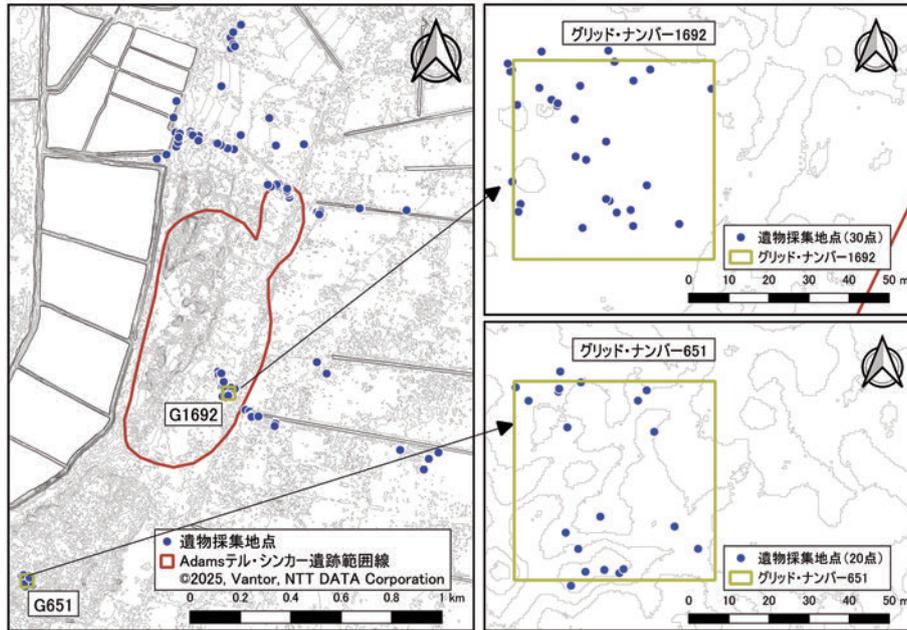


図2 ランダム・ウォーキング及びグリッド 651・1692 の遺物採集地点地形図。

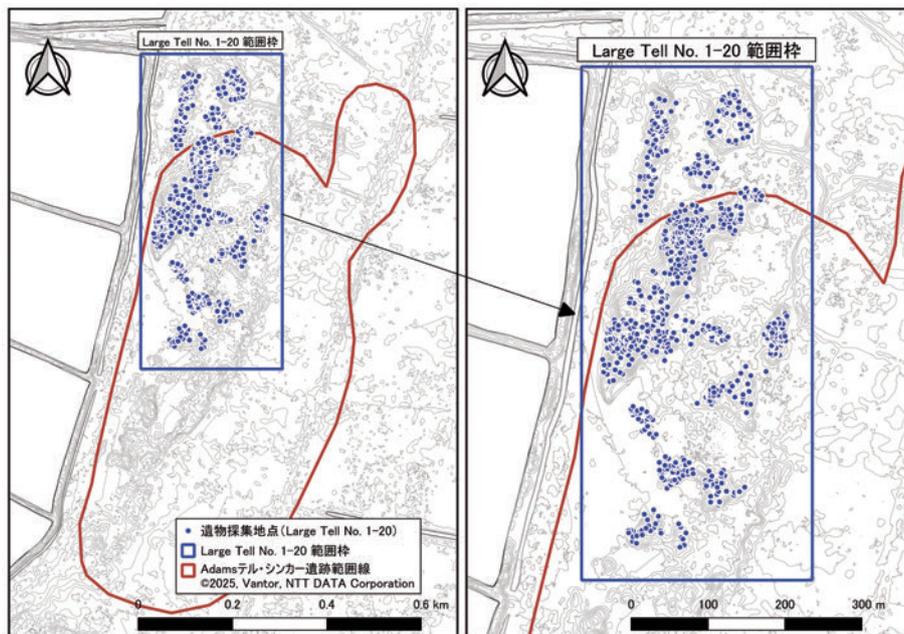


図3 Large Tell No. 1-20 エリアにおける遺物採集地点地形図。

3. 第2次テル・シンカー遺跡地表面調査

2025年度7月下旬から9月下旬まで実施した第2次テル・シンカー地表面調査では、1950年代後期にアダムズが予備的に描写した同遺跡範囲線の北西部外側エリアと範囲線内の北西部から南西部エリアに向かって連続してそびえる大小の遺丘群の地表面調査を実施し、型式学的特徴を有する口縁部土器片、底部土器片、そして装飾が施されている土器片及び他の遺物

を採集した。最北部に位置する遺丘から南西部に向かって、順番に Large Tell No. 1、No. 2、No. 3 というかたちで連番を付け、遺丘毎に順番に遺物の採集を行った。Large Tell No. 1 から No. 20 までの遺丘の地表面から、合計約 1700 点程の土器片を中心とした様々な遺物を採集した。それらすべての遺物の採集地点は、図3の同遺跡の AW3D DTM 等高線図に点で記録・表示してある(図3)。

4. シュメール初期王朝及びアッカド王朝時代に年代付け可能な土器片

アダムズ(Adams 1965)は、シュメール初期王朝時代に属するタイプA~Hの9種類の土器片とアッカド王朝時代に属するタイプA~Bの2種類の土器片を定義し、後にMcG. ギブソン(Gibson 1972)が追従・追加した計11種類の土器片を図画として公表している。現在、第1次及び第2次地表面調査において採集したすべての土器片等の遺物は、3次元写真測量法を活用した遺物の3次元図を掲載した遺物台帳への登録作業を行っている。遺物台帳はまだ完成には至っていないが、これら11種類の土器片の図画、遺物の採集時に撮影した土器片写真及び3次元図作成のために撮影した土器片写真との目視による比較分析を行った。その結果、図4の同遺跡のAW3D DTM等高線図に点で採集地点が記録・表示してある合計176点(第1次調査10点;第2次調査166点)の土器片は、初期王朝時代の土器片タイプE・F・H・Iの4種とアッカド王朝時代の土器片タイプBの図画の型式学的特徴と一致する可能性があることが明らかとなった(図4)。

アダムズが提示したシュメール初期王朝時代土器片タイプE(紐で切り取られた平らで幅の狭い底部と不規則に成形された円すい型の深鉢椀底部)またはタイプF(紐で切り取られた平らで広口の円すい型椀底部)の土器片の図画と一致するテル・シンカー遺跡とその

周辺エリアから採集した代表的な土器片サンプルは図5に示した(図5)。初期王朝時代土器片タイプH(フルーツ・スタンド、チューブ型スタンド皿口縁部、及

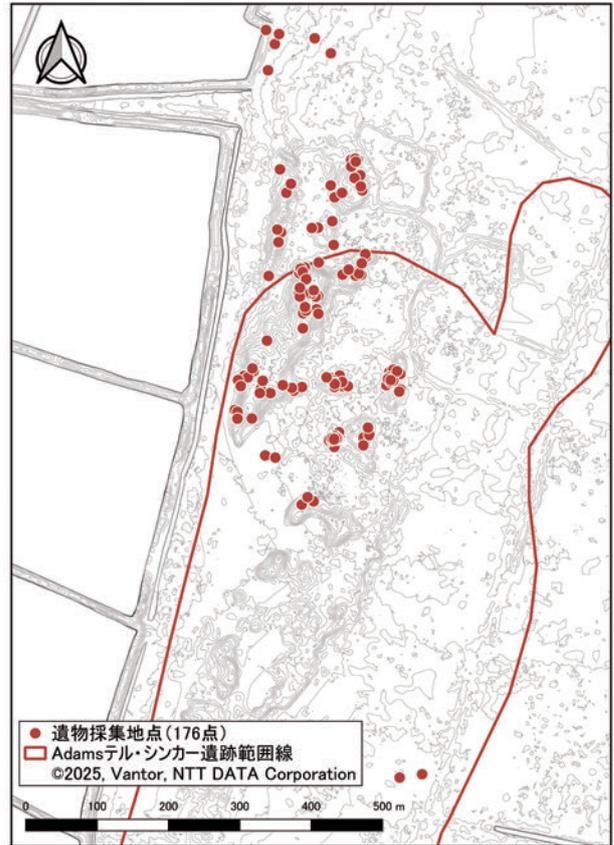


図4 シュメール初期王朝とアッカド王朝時代の遺物採集地点地形図。

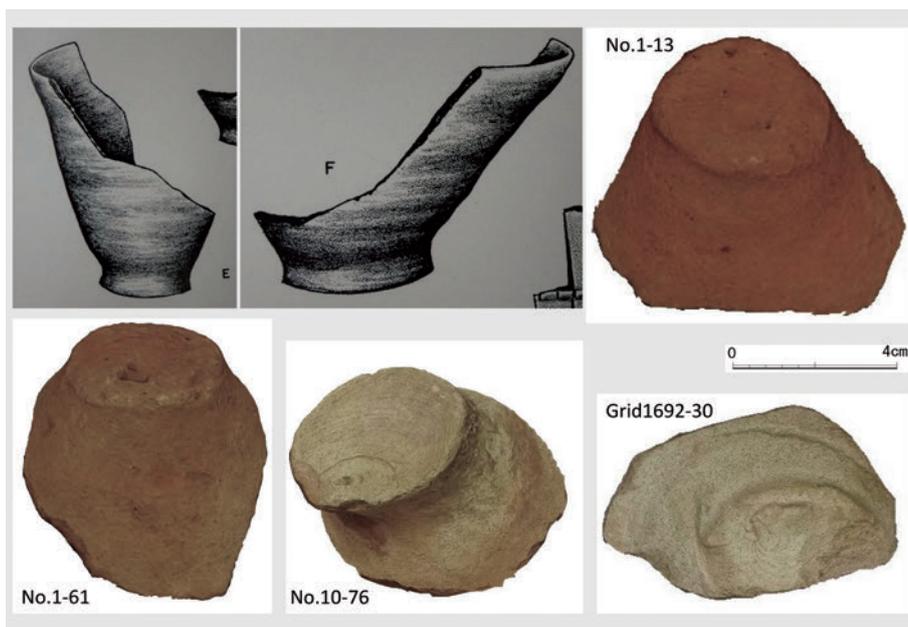


図5 シュメール初期王朝時代の型式学的特徴を有するタイプE & F土器片(Adams 1965)。

び直立状取っ手付き瓶の肩口と胴体部の境目の畝部分の数珠状または刻み目模様)の土器片の図画と一致する採集した代表的な土器片サンプルは図6に示した(図6)。初期王朝時代土器片タイプI(三角形及び基盤の目状の切込み線模様を有するスタンド胴体部分及び瓶肩部分)の土器片の図画と一致する代表的な採集した土器片サンプルは図7に示した(図7)。これら4種の土器片はすべて、初期王朝時代第III期に年代付けが可能な土器片となる。最後に、アッカド王朝時代土

器片タイプB(大型の椀に取り付けられた玉の様な丸い形の注ぎ口及び外傾斜面の口縁部真下から上向きに取り付けられた注ぎ口)の土器片と一致する代表的な採集した土器片サンプルは図8に示した(図8)。

5. まとめ

現時点においては、テル・シンカー遺跡から採集した土器片の写真とアダムズ及びギブソンがシュメール初期王朝とアッカド王朝時代に定義した図画との目視

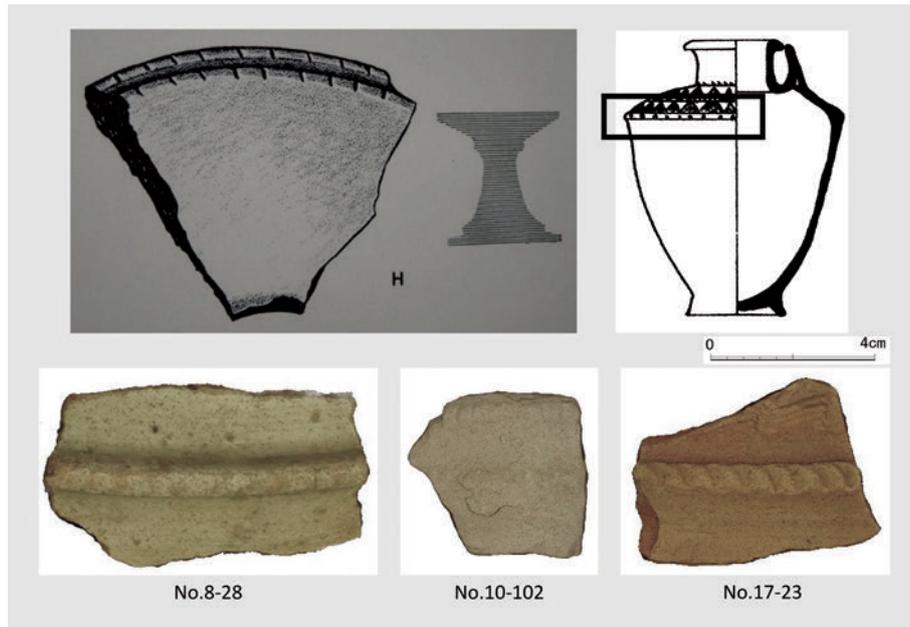


図6 シュメール初期王朝時代の型式学的特徴を有するタイプH土器片(Adams 1965; Gibson 1972)。

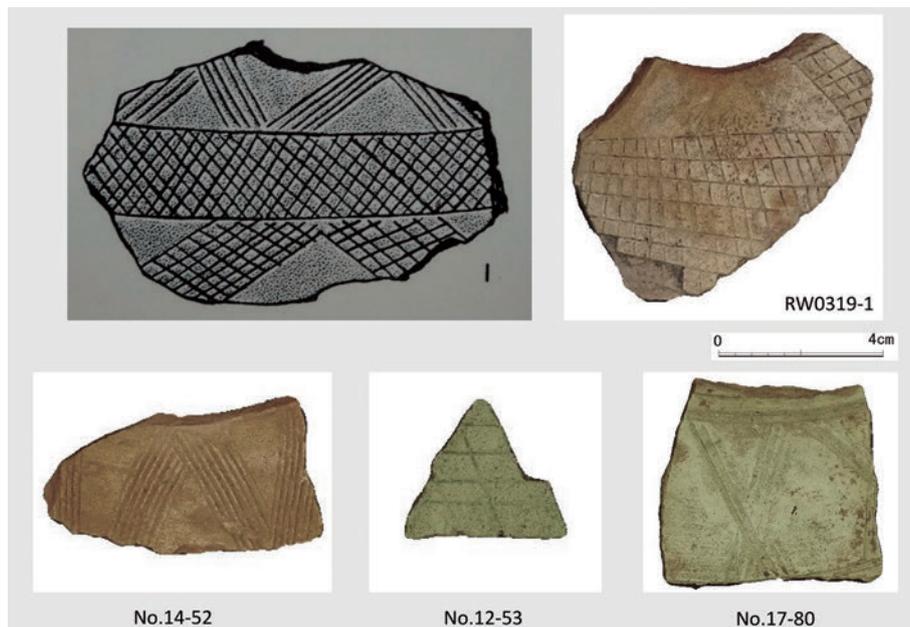


図7 シュメール初期王朝時代の型式学的特徴を有するタイプI土器片(Adams 1965)。

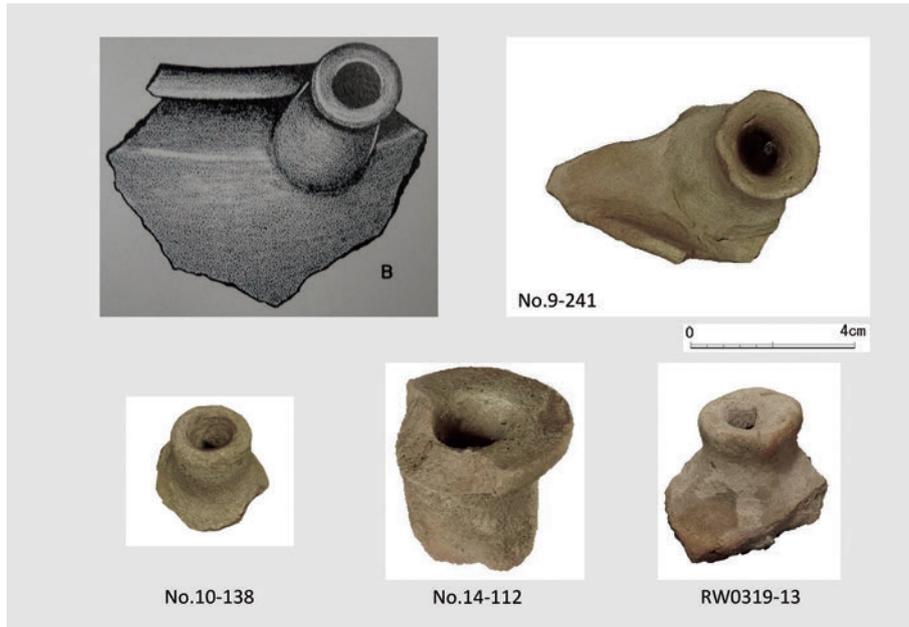


図8 アッカド王朝時代の型式学的特徴を有するタイプB土器片(Adams 1965)。

による比較分析のみの結果である。しかし、暫定的に特定されたすべての型式学的特徴を有する土器片は、初期王朝時代第III期からアッカド王朝時代に年代付けが可能な土器片であり、アガデが確実に都市として居住されていた時代の土器片である。この結果を持って、同遺跡をアガデに特定することはできないが、同遺跡がアガデである可能性を継続して探究する意義を示すことができた。

土器片遺物の情報を登録している遺物台帳には、土器片の3次元図による観察・分析が可能であることに加え、土器片の採集地点の位置情報(座標)、長辺、短辺、厚さ、重量、口径、底径、そして断面図に関するデータも記録される。そのため、これらの情報の更なる分析、特に口縁部の断面図の分析から、アダムズとギブソンのこれまでの研究成果、そして彼ら以降の他の研究者によるシュメール初期王朝からアッカド王朝時代に年代付けが可能である土器片に関する最新研究を鑑みた比較研究を実践することにより、これら2つの時代に年代付け可能な型式学的特徴を有する土器片を今後追加で選定できると考える。それらの土器片については、遺物台帳が完成した後に報告する。

また、第2次地表面調査で遺物採集ができなかったアダムズが描写したテル・シンカー遺跡範囲線内の南西部エリアの遺丘群において、2025年度(2026年)1

月下旬から3月初旬まで地表面調査を実施し、採集した土器片の遺物台帳への登録作業も並行して進めている。今後、これらの土器片の観察・分析も実践し、同遺跡がアガデに特定できるのか継続して考察する。

最後に、本調査は、令和6年度科学研究費助成事業「挑戦的研究(開拓)」課題番号:21K21175「人類初の統一国家古代メソポタミア・アッカド王朝の首都アガデの日本・イラク合同調査」(代表:川上直彦)の助成を受けたものである。

■参考文献

- ・ Adams, R. McC. 1965 *Land Behind Baghdad*, Chicago and London, University of Chicago Press.
- ・ Adams, R. McC. 1972 APPENDIX V. Settlement and Irrigation Patterns in Ancient Akkad. In McG. Gibson (ed.), *The City and Area of Kish*, 182-208 and Maps 1A-1F. Miami, Field Research Project.
- ・ Kawakami, N. 2022 Searching for the Location of the Ancient City of Akkade in Relation to the Ancient Course of the Tigris Using Historical Geographical and GIS Analyses, *Akkadica: Revue Semestrielle du Centre Assyriologique Georges Dossin* 143, 101-135.
- ・ Kawakami, N. 2023 The Location of the Ancient City of Akkade: Review of Past Theories and Identifications of Issues for Formulating a Specific Methodology for Searching Akkade, *Al-Rāfidān: Journal of Western Asiatic Studies* 44, 45-68.
- ・ Gibson, McG. (ed.) 1972 *The City and Area of Kish*, Miami, Field Research Project.